

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 大垣工業高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和8年2月13日(金) 15:20~16:15
(課題研究発表会 13:00~)
- 3 開催場所 課題研究発表会参観 大垣工業高等学校 体育館2階 アリーナ
協議会会場 大垣工業高等学校 本館1階 会議室
- 4 参加者
- | | | |
|-----|--------|-----------------------------------------|
| 会長 | 長瀬 ちえ子 | 大垣夢ある女性の会 事務部長 |
| 副会長 | 脇 直也 | 育友会会長 |
| 委員 | 小塚 生開 | 共立紡機株式会社 代表取締役 |
| | 松原 学士 | イビデン株式会社 経営企画本部人事部
採用グループ グループマネージャー |
| | 竹中 拓也 | 太平洋工業株式会社
コーポレート企画センター人事部 主査(欠席) |
| | 片桐 実智 | 地域代表(欠席) |
| | 山本 悦子 | 育友会3年学年代表 |
| | 原川 拓雄 | 大垣市立西中学校 校長 |
| | 中野 たみ子 | NPOひまわりの花 理事長 |
| 学校側 | | |
| | 桐山 明宏 | 校長 |
| | 安江 博 | 副校長 |
| | 蒔田 穰 | 教頭 |
| | 田中 卓哉 | 教頭 |
| | 中畠 菊太郎 | 全日制 教務主任 |
| | 服部 明広 | 全日制 進路指導主事 |
| | 伊藤 潤 | 全日制 生徒指導主事 |
| | 田中 正一 | 全日制 工業部長 |

5 会議の概要(協議事項)

(1) 令和7年度課題研究発表会および工業部の取組みについて

下記テーマの発表を参観

- | | |
|-----------|----------------------------------|
| ① 電気工学科 | 大垣工業高校 創立100周年記念 イルミネーションの製作 |
| ② 電子工学科 | ぎふハイスクールサット (GHS) |
| ③ 情報技術工学科 | Raspberry Pi を利用したLINE へのメッセージ送信 |
| ④ 機械工学科 | 大工100周年 カウントダウンパネルの製作 |
| ⑤ 電子機械工学科 | 集中カトレーニングマシンの開発 |

- ⑥ 建築・土木工学科 流域治水を広めよう
- ⑦ 化学技術工学科 メンズ美容市場に向けたサステナブル顔パックの開発
～Clothes to Cosmetics～
- ⑧ 海外フィールドワーク 海外フィールドワークの報告

(2) 意見交換 [課題研究発表会について]

- 意見 1 : トライ&エラーを繰り返し、失敗を通して工夫していく取組が発表されていて評価できる。先輩から引継ぎ研究に生かしている点に好感が持てた。エネルギーを頂いている。
- 意見 2 : 専門的で高度な内容に取り組んでいる。プレゼンの準備も大変だっただろうと思う。探究的な学びに主体性が発揮されていた。最後まで諦めずにやり切れたのはテーマ設定からしっかり取り組んでいたからではないかと思う。
- 意見 3 : 堂々とした発表であった。保護者の参観の機会をいただけたことに感謝している。
- 意見 4 : 専門性に特化したもので、よく取り組んでしっかりと発表していた。各科の代表として発表することで自信につながったと思う。
- 意見 5 : 発表に動画があり分かりやすかった。地域への展示もあり工業の学びが発信されてよいと思う。
- 意見 6 : 1年間の研究において苦勞の波があったと思うが、大きな声で元気よく頼もしい姿で成果が発表されていた。SDGsに関連したテーマ設定であったが、目的に対して達成できたか振り返りの検証を加えるとさらによい発表になるのではないかと思う。

(3) 全日制教務部、進路指導部、生徒指導部、工業部から、今年度の成果と反省、次年度に向けての改善について説明。

定時制全般についての今年度の成果と反省、次年度に向けての改善について説明。

(4) 意見交換 [自己評価・学校関係者評価について]

- 意見 7 : 講習やセミナーも他人事として聞いては身にならない。導入で自分事として捉えられるような工夫をすると効果が上がると思う。定時制の学びを拝見したがきめ細かな指導が生徒に寄り添って実践されていたので続けてほしい。
- 意見 8 : 企業としては欠席日数が多い生徒が増えていることが気になる。学校に居場所が増えることでつながりができると減るのではないか。新社長が年間50回程、社員と対話する機会をつくっている。今までとは違うコミュニケーションの仕掛けをつくってみてはどうか。
- 意見 9 : 出前講座など小中学生に工業高校の学びを知ってもらう機会が増えてよいと思う。地域行事に、大垣工業高校の放送部・吹奏楽部・太鼓部などがイベントに参加してもらえてありがたい。
- 意見 10 : 言いたいことを言えない子どもたちが増えているように感じる。希望がもてる社会をつくるためにも言い合える関係になりたい。
- 意見 11 : コミュニケーション不足に危機感を感じる。子どもたちが話しやすい環境をつくるのが大切だと思う。キャリア教育に関しては、大学などの学歴よりも、やりたいことをやっていること、やり切ったことが重要だと思う。
- 意見 12 : 生徒指導においては、小中高いずれも同じ課題がある。保護者に発信しても届かない、伝わらない現状がある。子どもたちから保護者に伝わっていない。子どもたちがコミュニケーションをとれるようになれば伝わるのではないかと思う。そのためには、ソーシャルコミュニケーションスキルを磨くことなど教員のアップデートが必要だと思う。普通科志向が強いため工業高校の魅力発信はなるべく早い段階(中学1年生・

2年生) から始める方がよいと思う。

(5) 令和8年度の学校運営協議会の委員選定 及び 第1回の実施予定日について

6 会議のまとめ

今回は協議に入る前に、各学科を代表する3年生生徒が1年間取り組んだ「課題研究」においてテーマ設定から実践し得られた成果と課題について発表を行う「校内課題研究発表会」及び、昨年12月にマレーシアの海外フィールドワークに参加した2年生生徒による「海外フィールドワーク報告会」の参観を行い、その後、協議を行った。

まず、「校内課題研究発表会」及び「海外フィールドワーク報告会」については、発表する生徒の姿を参観されることで、本校の教育活動について一層理解が図られ、大垣工業高校における各専門学科の分野の学びや、再開した海外研修の意義や成果について、各委員から感想や助言を得ることができた。

また、本校が6月に策定した「教育指導の重点及び学校経営計画」に対する、取組状況や実践内容、自己評価、成果と課題について、全日制各分掌長及び定時制副校長から報告を行い、委員の様々な知見や見地からの意見や助言を得ることができた。

今年度 創立100周年という大きな節目を迎えて取り組んできた様々な教育活動に対して、卒業生や地域、企業、さまざまな立場の委員に助言いただけたことに感謝の意を伝え、引き続き本校教育活動への理解と支援をお願いし散会した。